

いきいきダイアリー

名前	小坂 仁 (こさか じん)
住所	仙台市太白区郡山8の19の52
電話番号	090-9536-0844
メールアドレス	なし



近況、嬉しかったこと、私の十八番、おめでたいこと、残念だったこと、・・・何でも

「老人ホームの茶室のまぼろし」

二月二十八日は秀吉の命令で茶人千利休が切腹させられた悲しい日であった。抹茶を味わいながら利休を思い出した。

わがふるさと会津若松の鶴ヶ城の殿様であった蒲生氏郷は、恩師千利休の高弟でありました。

氏郷は、利休の遺児少庵を会津に招き、利休茶道の振福のため養育されたのでした。

昨年十月、氏郷の墓に手を合わせ、少庵を育成してくれた茶室隣閣を訪ねた。隣閣は、鶴ヶ城中央の花園広場に建立されているのでした。

「どちらからでしょうか」

「茶人でもあった伊達政宗の仙台からきました。」

なつかしい会津弁に心が揺れました。

神仏のまぼろしがみえる庭園を眺めながら、茶の湯の香りが魂に沈んでゆきます。萩の坂道を、杖をつきながら歩いた。城東門の陸橋を渡り、白虎隊飯盛霊場にゆく街道に出ました。

振り返ると西に天守閣が見え、東の雲間に磐梯山の姿がみえました。

会津の黒川城を若松城と改名させてくれた蒲生氏郷の辞世の歌を思い出しました。

限りあれば 吹かねど花は 散るものを

心みじかき 春の山風

いざたどらまし、 死出の山道。氏郷の若松での人生は、四年間でした。

四十歳で涅槃の里へ辿り着いたのであった。

利休のお茶も底となり、私は煩惱の坂道を歩いています。

老人ホームの窓から下界を見ると、粉雪が舞う初冬のわかれの夕暮れでした。